

本陣等々力家 再生・活用事業

本陣等々力家、安曇野の時をつなぐ——受け継ぐ伝統、新たな価値への扉



本事業提案の概要

本陣等々力家、安曇野の時をつなぐ——受け継ぐ伝統、新たな価値への扉

基本
方針
1

伝統を守り、未来へつなぐ
文化財保全と
地域の誇りの創出

基本
方針
2

新たな価値を創造し、
観光と地域経済を活性化する
交流拠点の形成

実施方針

○実施方針1「歴史的価値を最大限に活かした保全活動」

- 建築物と庭園を一体的に保全し、主屋や蔵、庭園の調和を尊重した修復を実施。
- 地元職人や伝統技術を活用し、文化財価値を向上させるとともに地域文化の技術継承を推進。
- 耐震補強や防災計画を策定し、安全性を確保。省エネ技術を導入し環境にも配慮。

○実施方針2「地域住民と共に進める文化財保全」

- 市民参加型の清掃や維持管理活動を促進し、文化財保全の学びの場を提供。
- 小中学校や大学と連携し、修復作業を「生きた教材」として活用。
- 地元住民が集う場所として等々力家を開放し、一体感を醸成。

○実施方針3「地域文化の発信拠点としての活用」

- 地域文化の発信拠点としての体験イベントを開催。
- 本陣等々力家を中心に観光ルートを構築し、地域全体の観光価値を向上。
- 多言語に対応したデジタルツール等の活用。

実施方針

実施方針1「高付加価値観光と交流拠点の形成」

- 国内外の高付加価値観光客を誘致する複合型交流拠点として利活用。
- 地域の自然、伝統、文化を取り入れ魅力ある宿泊や飲食機能を導入。

実施方針2「地域文化体験と経済振興の推進」

- 屋敷林散策、地元食材を利用した料理教室など地域文化を体感できるプログラムを提供。
- 地元産品を扱う小売店舗を設置、工芸品や農産物の販売を通じて地域経済の活性化を図る。
- 地域の事業者と連携し、季節ごとのイベントを開催し、観光客と地域住民の交流を促進。

実施方針3「公民連携と持続可能な運営」

- 公民連携により、イニシャルコスト、運営コストを抑制した持続可能なスキームを構築。
- 多言語対応ガイドやデジタルツールを導入し、訪日外国人観光客の利便性を向上。
- 観光・宿泊・体験・小売を一体化させ地域ブランドを強化し、安曇野市全体の経済活性化を図る。

上位計画の整理及び課題と本事業との関連性

上位計画の整理

第2次安曇野市総合計画

将来ビジョン 「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」

(古民家再生・活用に関連性の高い施策)

- 誰もが活躍する共生のまち「歴史・文化遺産の継承」
- 選ばれ続けるまち、安曇野「商工業の振興」
- AZUMINOブランドの発信「生産振興と販売力の強化」、「市内事業者の経営強化」、「戦略的な観光プロモーション」、「アウトドア・スポーツを核としたまちづくり」、「自然環境の保全」
- 文化・芸術中核都市の実現「文化・芸術活動の推進」
- アウトドア・スポーツの聖地「戦略的な観光プロモーション」

第2次 安曇野市観光振興ビジョン

観光振興ビジョンコンセプト 「また行きたい、選ばれ続ける観光地 安曇野」

- 安曇野市観光の特徴
 - 日本屈指の人気を誇る山岳の麓に位置している
 - 多彩な観光資源を有している
 - リピーターの割合が多い
- 観光産業における課題
 - ▲滞在時間が短く市内消費額が少ない
 - ▲観光エリアが特定のエリアに偏る
 - ▲新しい層の開拓や市内調達の増加が必要

観光振興ビジョンにおける施策と本事業での取り組み事項

The diagram illustrates the relationship between the integrated planning of upper-level plans and specific implementation items for tourism development. It shows a top-level box for the 'Second General Plan of Anzeno City' and 'Second Tourism Revitalization Vision' connected by a downward arrow, which then branches into three colored boxes: 'Formation of Sustainable Tourism Destinations' (blue), 'Strategic Tourism Promotion' (red), and 'Utilization of Local Tourism Resources' (green). Each of these three boxes contains a list of specific implementation items.

持続可能な観光地の形成	戦略的な観光プロモーション	地域独自の観光資源の活用
<ul style="list-style-type: none">● IT技術を活用、業務のマルチタスク化で運営コストを抑制● 地元スタッフを積極採用し、観光産業の地域還元を促進● 長期滞在型観光を推進し、宿泊日数を増やすことで観光消費額を向上● 地域経済の持続可能性を高め、安曇野市の観光地としての価値を向上	<ul style="list-style-type: none">● 自社ホームページを開設し、宿泊施設と観光資源を発信● 國際的なネットワークを活用し、旅行社やOTAと提携して安定集客を確保● 歴史的建造物を活かした高付加価値イベントを実施● 海外インフルエンサーを活用し、安曇野ブランドの認知度向上を図る	<ul style="list-style-type: none">● 歴史的建造物を改装した宿泊施設等の観光拠点を整備● 地元食材を活かした古民家レストランを併設し、観光客や市民の利用を促進● 文化・芸術活動を活性化し、新たな観光資源として発信

基本コンセプト及び事業戦略

メイン ターゲット

- 国内旅行者
- インバウンド旅行者
- 安曇野市の地域市民

マーケティング

- 施設の情報だけでなく、安曇野市内の観光施設、食など観光地としての魅力発信を目的とした自社ホームページを開設する
- 地元企業・団体の招待や会合、個人のお祝い法事の場としてニーズの高い地元食材を活用したレストランを強みとしてPRする
- ルレ・エ・シャトー等の人脈を活用した国内外の旅行会社、国内外のOTA、市内企業との法人契約を推進することで安定的な集客を図る
- 歴史的建造物を活かしながら、安曇野市らしい素材や調度品など域内調達、内装に取り込む
- 等々力家の歴史的・文化的価値を国内外に発信、安曇野ブランドを全国・世界に発信する

サービス 設備

宿泊エリア

- ✓ 本陣等々力家の歴史を感じながら、日本の本物の文化に触れられる客室
- ✓ 歴史的な文化財の趣をそのまま活かす
- ✓ 天然温泉を導入した浴場を設置

レストラン

- ✓ 伊東豊雄氏による「既存建物との調和と対比」
- ✓ 多目的に活用できる安曇野市の迎賓館
- ✓ 等々力家の建造物群の瓦屋根と屋敷林、その向こうにアルプスを臨める安曇野らしいキービジュアル
- ✓ レストラン利用のほか多目的ホール、ウェディング

文化・交流促進エリア

- ✓ 地域住民、旅行者、学生など多様な人材の交流スペース
- ✓ 「観光 × 学び × 文化交流」
- ✓ 情報集約とコンシェルジュ機能、食と農のイベント、自然・文化体験とアクティビティ提供教育・国際交流の推進等

オペレーション

- インバウンド誘客で実績のある宿泊施設運営会社が関与することにより、安定的・効率的なオペレーションを実現する
- フロント業務やサービス、パブリック清掃、予約、管理などをマルチタスクで行うことで省力化を図り、ITなど技術を利用してすることで、イニシャルコスト、運営コストを抑制した持続可能なスキームを構築
- 安曇野市の魅力を広く発信し、来訪を促すきっかけを創出する
- 地元スタッフを積極的に採用することにより、雇用創出に貢献する
- 地域のアクティビティ事業者、観光事業者と連繋し、安曇野市での過ごし方を提案するコンシェルジュサービスをお客様に提供。安曇野市内の立ち寄り地点を増やし、滞在型拠点として2泊以上の宿泊を増やす。市を滞在型の観光地として転換を図り、域内観光消費額を向上させる

本事業の取り組みイメージ（ソフト面）

以下の取り組みにより、地域への波及効果を図ります

本陣等々力家を核とした地域独自の魅力の掘り起しと発信

体験型
コンテンツ



回遊型
観光



地元住民との協力体制の強化

雇用
促進



デジタル技術の活用/インフルエンサーマーケティングの実施

デジタル
技術の
活用等



持続可能な観光施設の運営

地元
産品の
活用



リサイクル材の
活用



施設コンテンツ概要（ハード面）

宿泊エリア



文化・交流促進エリア



レストラン



ゾーニング案 (1/2) 俯瞰図



ゾーニング案 (2/2) 各エリアのコンセプト

集

レストラン

宿泊者だけでなく外部利用も可能なレストランを設置。古民家や畠を望む眺望を楽しめ、二階は展望と憩いの場として活用。婚礼や地域・企業のイベント、催事にも利用可能。



交 創

文化・交流促進エリア

文化交流施設は観光客と住民をつなぐ拠点。マルシェや体験で地域文化を体感し、国際交流と人材育成を促進。滞在延長と地域経済循環を実現。



穢

等々力ベジタブルガーデン



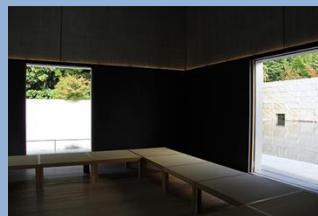
ファーム to テーブルを体現するレストランとイベント用の菜園。地元農家の協力・監修を得て、子どもたちの収穫祭など地域とつながる場として活用。

誇

宿泊エリア

古民家の趣を残しつつ、快適性とプライバート性を兼ね備えたスマートラグジュアリースーペリオール宿泊施設へと再生。失われかけた伝統や様式美を継承し、地域が誇るスマート施設としての価値を体現。

天然温泉／宿泊施設／ラウンジ／デッキ・ファイヤーピット／レセプション／水盤・庭園／バックオフィス／スタッフ用部屋／ストレージ等



宿泊エリアの概要

本陣等々力家は、安曇野を知る入口として大きな可能性を持つ拠点。歴史的文化財の趣を守りつつ、日本文化を体験できる客室や天然温泉浴場を整え、滞在時間の短さという地域課題の解決に寄与する。また、文化交流促進エリアを通じ、住民や事業者との自然な交流を生み、歴史・文化・交流が交わる場として観光資源価値を高め、町おこしに貢献する。なお、全国で古民家再生施設が増加しており、単なる再生では利用が伸び悩む可能性が高いため、下記の通り差別化を図る。

宿泊エリアの課題と解決策

課題

- ✓ 「等々力家でなければならない理由」が不明確
- ✓ 全国的な古民家再生施設の増加による競争激化
- ✓ 「文化財再生」だけでは十分な差別化が困難
- ✓ 客室数が9室に限定され、収益確保に制約
- ✓ 安曇野観光における「滞在時間の短さ」という地域課題

解決策

- ✓ 歴史的文化財の趣活かした文化体験を通じ、唯一無二の滞在価値を創出
- ✓ 安曇野の地域資源である温泉を活用し、長期滞在ニーズに対応
- ✓ 宿泊施設内で温泉の魅力を紹介し、周辺温泉地への誘客を促進
- ✓ マルシェやイベント開催を通じ、地域住民・事業者との自然な交流を促進
- ✓ 北アルプスを望むデッキ付きレストランや菜園を整備して体験価値を強化
- ✓ 独自体験の創出により競合との差別化を図り、稼働率最大化と客室単価向上を両立。地域経済と観光資源価値の向上に貢献



レストラン棟の概要 (1/2)

【コンセプト】「食」を通じて安曇野全体のブランド価値を向上させる拠点の創出

安曇野の食文化の発信拠点として、地域の生産者等、様々な主体と連携しながら様々な安曇野の商品を「見て」「触って」「味わって」いただき、食を通じた安曇野の豊かさを体感していただくことで、安曇野ブランドの価値の向上と発信を行っていく拠点となり、安曇野全体の価値を向上させることを目的とする。



レストラン棟の概要（2/2）

施設の概要

- 安曇野の様々な产品を用いて構成された食事や空間を味わえるレストラン
- 世界的建築家「伊東豊雄氏」の設計による新築のレストラン棟で「味わい・体感できる安曇野」が安曇野ブランドの価値を一層向上させると共に本陣等々力家と安曇野を世界に発信
- 等々力家の建造物群の瓦屋根と屋敷林、その向こうにアルプスを臨める安曇野らしいキービジュアルを想定
- 宿泊者、地元住民、企業などが以下のように様々なニーズで活用が可能

【国内外からの旅行者・宿泊者】

安曇野を訪れる目的となるような食の体験

【地域企業・団体】

イベント会場、交流会の場、VIP招聘会場など安曇野の迎賓館として

【地域住民・長野県内外のゲスト】

安曇野に暮らす人が大切なゲストをもてなす場、人生の節目を刻む特別な場所として利用

食を通じた <安曇野の豊かさ> を世界に発信する拠点とする



文化・交流促進エリアの概要(1/2)

本エリアの位置付け

安曇野市「本陣等々力家」を拠点として、地域資源と教育機関等の多様な知的資源を結びつけ、「観光と学び」の融合を図る文化交流拠点として整備を進める。

江戸期において庄屋・本陣として地域運営の中核を担った等々力家の歴史的役割を継承し、その価値と精神を現代的に再解釈しながら、「知を通じて人と地域をつなぐ場」の創出を目指す。

基本コンセプト

「観光 × 学び × 文化交流」 – 安曇野から広がる知と感性の循環
地域課題の解決や新しいライフスタイルをテーマに、旅行者・学生・企業・地元住民など多様な人々が協働する、実践的な学びの場を形成。観光・教育・研究・芸術を横断的に結びつけ、安曇野の価値を再発見・再編集する拠点

運営・連携体制

本構想は、行政・学術・民間の連携によって推進されており、安曇野市（行政）、扉ホールディングス株式会社（運営）、および地域事業者が協働して、持続可能な運営スキームの構築を目指す。

＜「本陣等々力家 文化交流促進エリア構想会議 参画メンバー（順不同）＞

清泉女子大学 学長 山本達也 先生
和歌山大学 教授 加藤久美 先生
信州大学 副学長 林 靖人 先生
信州大学 准教授 野田慶司 先生
松本大学 名誉教授 山根宏文 先生
インターナショナルスクールオブ長野 CEO 栗林梨恵 氏
株式会社山荷葉 代表 笠井 代表

文化・交流促進エリアの概要(2/2)

文化・交流促進エリアの主な機能と活用内容案（構想会議で検討段階）

情報集約とコンシェルジュ機能	<ul style="list-style-type: none">観光・地域・文化情報を一元化「等々力家に行けば安曇野での過ごし方がわかる」拠点
自然・文化体験とアクティビティ提供	<ul style="list-style-type: none">安曇野の自然・文化を楽しむツアー・アクティビティを提供地域のガイドや職人と連携して日本文化体験を実施（地域通訳案内士の活用）
農と食の交流	<ul style="list-style-type: none">敷地内の「等々力ベジタブルガーデン」と連動し、収穫体験や料理イベントを開催農家訪問・農作業体験・地元産品を使った食事づくりを通じ、ファーム・トゥ・テーブルを体現
教育・国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none">旅行者・学生・企業・地元住民など多様な人々が交流する場を構築地域課題の解決や国際交流を促進し、外国人旅行者と地域住民が自然に交わる環境を整備
地域イベント・マルシェ	<ul style="list-style-type: none">地元事業者と連携したマルシェや季節のクラフト市など定期開催観光客と地域住民が自然に交わる開かれた空間として、滞在価値と地域アイデンティティ向上



建築家 伊東豊雄氏の紹介

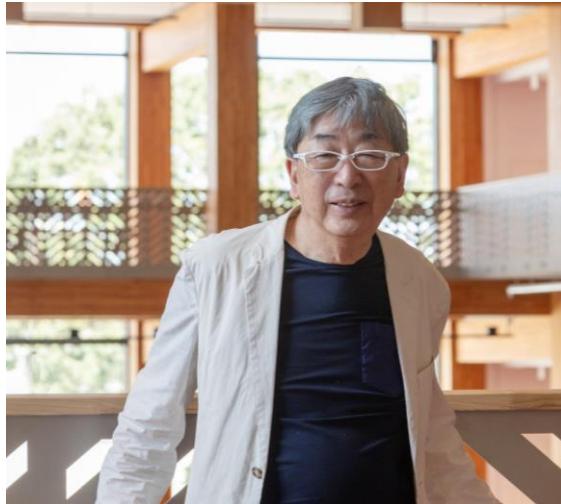
伊東豊雄（いとう とよお）氏は、日本を代表する建築家の一人であり、世界的にも高い評価を受けています。1941年生まれ。東京大学工学部建築学科を卒業後、1971年に「伊東豊雄建築設計事務所」を設立し、住宅から公共施設、文化施設に至るまで幅広い作品を手がけてきました。「せんだいメディアテーク」（宮城県仙台市）、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」（岐阜市）、「多摩美術大学図書館」（東京都）、「台中国家歌劇院」（台湾）などは、その代表作として国際的に知られています。

革新的なデザインと地域社会に根差した活動により、プリツカー建築賞※（2013年）をはじめ、王立英国建築家協会（RIBA）ゴールドメダルなど、建築界の主要な国際賞を多数受賞しています。東日本大震災後には「みんなの家」プロジェクトを主導し、被災地に寄り添いながら地域再生に貢献するなど、社会性の高い活動でも広く知られています。

現在も国内外において、建築・都市デザインを通じて地域文化の継承と新しい価値の創造に取り組み続けており、近年は大阪・関西万博における主要施設の設計にも携わるなど、現代を代表する建築家として大きな存在感を示しています。

今回、安曇野市における歴史的建造物「本陣等々力家」の再生に携わっていただきことで、歴史的資源の保全と地域文化の継承を図るとともに、地域資源を活かした交流拠点の整備を通じて、持続可能な地域振興に寄与していくことが期待されています。

※プリツカー建築賞（Pritzker Architecture Prize）とは、建築界で最も権威のある国際的な賞のひとつで、しばしば「建築界のノーベル賞」とも呼ばれている



©中村絵



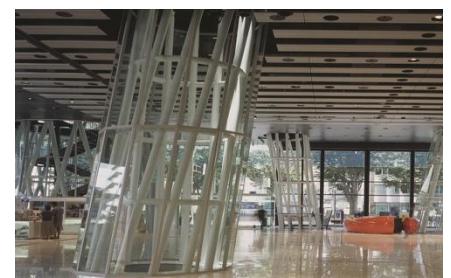
ぎふメディアコスモス



みんなの家プロジェクト



多摩美術大学 八王子図書館



せんだいメディアテーク